

令和4年度 第4回里庄町地域公共交通会議 議事録

と き 令和4年9月28日(水)

10:00~11:30

ところ 里庄町福祉会館2階 研修室

1. 開 会

- ・ 出席者 委員 12名
- ・ 欠席者 委員 2名

【会長挨拶】

- ・ 会長よりあいさつ

2. 議事

(1) 里庄町地域公共交通計画の素案について(協議事項)

- ・ 事務局より説明

(会長) 説明を聞いていただいてお分かりのとおり、1番のポイントは、タクシー助成事業の拡充を大きく打ち出しているところ。町としては、それなりの覚悟でお金を投入するということである。ここが計画の中で1番大きなポイントだと私は思っている。

(会長) 14ページの「2-9 移動に関する住民ニーズ」で、お願いしたいことが1点と確認したいことがある。お願いしたいことはタイトルの修正で、移動に関する住民ニーズだけではなく、国勢調査を使った移動に関する現況も記載されているため、「移動に関する現況と住民ニーズ」や「移動に関する現況及び移動ニーズ」といったタイトルに変えた方が良いと思う。確認したいことであるが、15ページと16ページの下に移動手段のアンケート結果があって、「現在または近い将来公共交通を利用する可能性がある人」は「自動車(乗せてもらう)」の割合がすごく多いが、事務局はこれをどう解釈しているのか。「身近な人が車に乗せてくれるので自分は移動ができると考えている」と解釈すれば良いのか、そこまでは考えていないが、「誰か家族が連れて行ってくれるだろうと考えている」と解釈すれば良いのか。

(事務局) 通院や買い物の移動手段は、主に何で移動するかを聞いて出している数値である。15ページでページ番号の少し上の所にあるように、住民アンケート調査において、「運転免許証を持っていない」「近々運転免許証を返納する予定」、または「世帯で自動車を持っていない」といった旨の回答を示した方を抽出してグラフの青い部分としている。近々運転免許を返納する予定で、自分で運転するという人も5.6%いる結果になっている。自動車に乗せてもらう方が63.9%と6割以上である状況で、例えば免許を返納したいご主人に奥さんが乗せてもらっているケースや、平日に子供に仕事を休んで都合を付けてもらって通院しているといったケースも含まれるのではな

いかと思われる。

(会長) 公共交通も大事であるが、地域の方々に支え合って乗るようなものも当然移動を支える手段としてはある。乗せてくれる人がいると想定しているということは、あまり困っている方は多くなさそうだと思う。一方ではタクシーを利用したい方もいらっしゃるため、今の方向性とはそんなにぶれていないと考える。

(委員) 25 ページの「タクシー料金助成事業見直し」で、「町民税非課税の要件を撤廃」とあるのは、とてもありがたく嬉しく思う。また、母子健康手帳の交付を受けている妊産婦も新設していただけたのは、本当にありがたく思う。令和3年度は532万円の補助金額が出ているが、令和5年度から事業を始めるに当たり、どれくらい増額になるのか教えていただきたい。また、事業について令和6年度から見直しをするようになると思うが、見直しの内容を教えていただきたい。

(事務局) 前提として、かなり概算の額であると申し上げておく。拡充をしてどれだけ利用が増えるのか、事務局としてもまだ読めないところがあるが、町民税非課税の要件を撤廃することで、現在の利用者枠から1.6倍程度に広がるのではないかと見込んでいるため、支出も同様に増えるのではないかと考える。妊産婦の新設については更に読めないところであるが、最大900万円から1,000万円程度の支出になる可能性があると考えている。例えばタクシー会社の方で研修を実施したり、チャイルドシートを購入したりするのであれば、その支援も検討する必要があるため、多めに見積もって2,000万円程度としている。また、見直しについては、例えば思った以上に事業の評価が悪かった場合は、もう少し枠を見直さなければならない。資料の末尾に記載しているPDCAサイクルに基づいて評価をするため、しっかり実績をチェックして、それに対してどうアクションをしていくのかを考えていきたい。

(会長) 25 ページの Step 1 の「母子健康手帳の交付を受けている妊産婦」について。妊娠すると母子健康手帳が交付されるが、いつまで事業の対象となるのか。事務局としては、どのあたりまでを「妊産婦」として考えているのか教えていただきたい。もう1つ、29 ページの評価指標の中でタクシーの利用者数を挙げているが、この利用者数の中に助成券を利用した人数を含めるのか教えていただきたい。

(事務局) 母子健康手帳の交付を受けている妊産婦については、交付を受けてからお子さんが3歳になるまでを考えている。これは一般的な助成事業と比較してかなり長い。現在2,000万円という目標を立てるに当たり、3歳まで助成することを想定している。2点目のタクシーの利用者数については、すべての利用者を含めることを想定している。

(委員) 高齢者の助成券と妊産婦の助成券は同額なのか。もう1点、1 ページの「計画における公共交通」で、路線バスは「寄島～里庄線」だけ書いてあるが、できれば1日の運行回数等を記載した方が良い。

- (事務局) 妊産婦へのタクシー料金助成は、今後検討するうえで変更になる可能性はあるが、現在行っている高齢者の助成と同じ仕様を想定している。「寄島～里庄線」は1日7往復しているが、それについてはしっかり明記させていただく。
- (委員) 事業者としては、母子健康手帳の交付を受けている妊産婦を新設するというのは、利用していただける方が増えると思う。ただし、医療機関ではないので、何かあった時に対応はできない。お産はいつ起こるか分からず予約ができるものではないため、運行していない時に連絡があっても対応ができない。2人の命に関わることにもなるかもしれないため、そのあたりの運用も考えなければならないと思う。日中であればいくらかでも利用していただきたい施策ではあるが、そこが気になった。
- (委員) 障がい者に対する支援は別途あることが分かったが、障がい者でも高齢になるとさらに動きにくくなる。そのあたりも踏まえて助成券の枚数を考えてもらいたい。
- (事務局) 今後の施策については、要望を踏まえながら柔軟に対応していきたい。
- (会長) 妊産婦さんの件については、助成をする時に利用の手引きを作って、タクシーの営業時間外は救急車を使ってもらうよう書いた方が、トラブルは起こらないと思う。
- (委員) 病院は笠岡市に行く方が多い。私は井笠管内では里庄町だけでなく、井原市や笠岡市の地域公共交通会議にも出させてもらっているが、笠岡市は福山市と生活圈の点から広域的な計画策定をしている。今回の計画期間である令和5年から9年ではそこまで広げることはできないだろうが、令和10年からの次期計画は、里庄町も笠岡市と連携して一緒に計画を策定するとか、広域連携としての横断的な繋がりが町境・市境においては重要になるのではないか。広域連携の調整という意味で県がある程度計画策定に関わるというのも1つの方法だと思う。例えば都市計画で言うと、それぞれの市町で都市計画マスタープランを作っているが、県は区域マスタープランを策定して広域連携の調整をしている。上位計画には国が作った計画が既にあるため、今後横断的な繋がりや連携は考えているのかをお聞きしたい。
- (事務局) 今回は、あくまで町内での移動手段における計画としているが、確かに笠岡市と福山市が、共同で公共交通の計画を策定していることは承知している。今後は連携について考えていく必要があると考えている。
- (会長) 広島県は県全体の公共交通のビジョンを作ろうと動き出していて、最近新聞紙面を賑わせている「ローカル鉄道の在り方」のように、広域的な公共交通の在り方というものが問われている。岡山県でも考えられた方が良くかもしれない。
- (委員) 第4次里庄町振興計画の評価指標に、寄島～里庄線バスの1日あたりの乗車人員が記載されている。上位計画には目標値として挙がっているが、今回の地域公共交通計画の寄島～里庄線については、27ページに「浅口市と

協議しつつ、路線の維持に努めます。」の記述に留まっている。上位計画に目標値があるため、何か利用促進策をする等、目標を達成するための手立てを考える必要があるのではないか。また、9ページにあるタクシーの営業状況で、「町内の乗務員数」とあるが、あえて町内の人数を出している理由を教えてください。

(事務局) あえて「町内」と書いているのは、里庄タクシーが運営している笠岡市の

神島タクシーに乗務員が1人いるが、その人を除いた数という趣旨である。

(委員) 上位計画に第4次里庄町振興計画があり、町全体の地域公共交通計画を策定する中で、我々タクシー事業者も会議に参加させてもらっているが、我々だけでなくJRの乗降客数も非常に重要な数字である。8ページの令和1年から令和2年の乗車人員の減少が激しく、特に定期外の減少が著しい。大手の会社では出勤率を50%にして、リモートワークが当たり前に行き、オフィスを削減する動きになっている。出張も50%くらいになると思う。地域外から入る人や通勤通学の方は、JRを使うのがメインとなる。JR里庄駅は核・ハブであり、そこからタクシーに乗ったり、迎いの自家用車に乗ったりする重要な拠点である。この辺りを開発して乗降しやすくする等、JR里庄駅の利用者数の最大化を図るためにも、計画の中で先々どのようなことを見据えているのかをお聞きしたい。

(副会長) 計画の中に、駅構内のバリアフリー化、駅周辺の整備、駅駐車場の利便性の確保を書かせていただいている。どちらを先にするのか、または同時進行でするのかはこれからの議論になるが、まず駅構内のエレベーター設置等のバリアフリー化は早急に取り組んでいきたいと考えている。議会でも話をしながら進めていく方向性で考えており、それに合わせてできる限り、駅を利用しやすいように駅前の整備もしていく必要があると考えている。里庄町振興計画や地域公共交通計画に従ってできるだけ早く進めていきたいと考えている。

(会長) 27ページの「情報提供等による新規利用者の獲得」で「JR里庄駅において、観光客やビジネス客といった町外からの来訪者に対して情報提供を行い、公共交通の利用を促進します。」とある。ここで言う公共交通とはタクシーだと思うが、例えば観光のホームページで、観光施設のPRもするが、「タクシーで行ける」という情報を入れる等するだけでも、変わってくると思う。そのあたりは官と民で連携して取り組んでいただけたらと思う。計画の内容はこれで全然構わないが、26ページの「JR里庄駅の利用環境の改善」の「駅周辺の町営駐車場を適正に運用し、パーク&ライド機能を維持します」について、駐車場を民営化できないかと思っている。町営では行政として笠岡市東部の市民に「使ってください」と言いづらく、民営であれば積極的に営業を仕掛けることができる。持ち分としては町であるが、民間に貸して営業してもらい、儲かったお金を町に入れてもらうようなビジネスモデルもあり得るのではないか。計画の記載内容とは関係ないが、そうすることで駅の利用者数も増えるだろうし、タクシーの利用者も

増えるのではないかと。先々考えてみても良いと思う。

(副会長) 今回の計画の中で、妊産婦の方のタクシー助成券を発行し、通院等に利用していただきたいと考えているが、産婦人科は町外にある。行きはタクシーで送ったとしても、帰りに町内のタクシー会社から迎えに行くことは大丈夫なのか。

(委員) 帰りの際の着地が町内であれば大丈夫である。

(副会長) 安心した。町内のタクシー事業者には、できるだけ我々もチャイルドシートや、乗降しやすい車両の整備についても支援したいと思う。そのため、せっかく送っても迎えに行くことができないとなれば、効果が薄れてしまうと思ひ質問させていただいた。

(会長) この素案を先々パブリックコメントにかけたいため、これから挙手による採決をさせていただきたい。事務局から提案があった地域公共交通計画で、基本的な記載内容については今日提案があった素案を認めるということで良いか、承認いただける方は挙手をお願いしたい。

～挙手多数～

(会長) 挙手多数ということで、本件につきましては承認したこととする。本日の議事は以上となるが、その他皆さまから何かあるか。

～意見なし～

3. その他

- ・ 事務局より今後のスケジュールについて説明

4. 閉 会

以上